

（BOX 1）最近のグローバルなIT関連需要の持ち直しとその背景

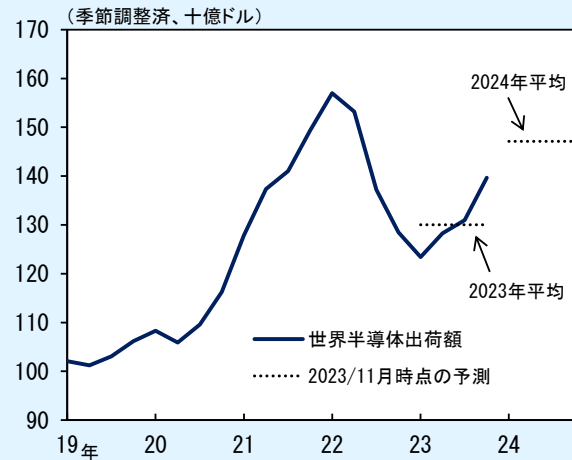
グローバルなIT関連需要は、コロナ禍における外出制限やリモートワークの拡大等が影響して大幅に増加したあと、2022年後半以降、弱い動きが続いてきた。もっとも、最近では、半導体出荷額も増加に転じているなど、持ち直している（図表B1-1）。

これには、生成AIサービスの速いペースでの拡大が大きく影響していると考えられる。生成AIサービスの利用が進むに伴って、AIサーバーへの投資を積極化する動きがみられており、これに搭載される高性能半導体等に対する需要は急拡大している。実際、AIとの関連が強い大手半導体企業では、最近の売上が顕著に増加しているほか（図表B1-2）、アジア地域のIT生産を確認しても、AI関連の高性能半導体の製造を手掛ける企業が多いNIEsは、より汎用的な半導体の製造における後工程を担うASEANと比べて、IT関連財の生産がはっきりと増加している（図表B1-3）。

この間、その他のIT製品について、在庫調整の動きをみると、一部で長引いているものの、PCやスマートフォンを組立製造する企業を中心に、全体としては進んでいる（図表B1-4）。こうしたもつとで、AIとの関連が強い企業を除いても、大手半導体企業の売上高は、足もと下げ止まりつつある（前掲図表B1-2）。

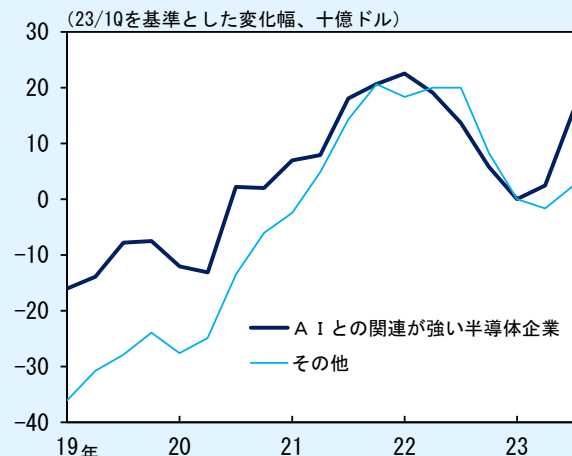
先行きについても、半導体業界や業界関係者からは、生成AIサービスの拡大に牽引される形で、持ち直しの動きが続くとの見方が示されている（前掲図表B1-1）。もっとも、以下の2点に留意が必要である。

図表B1-1：世界半導体需要（WSTS）



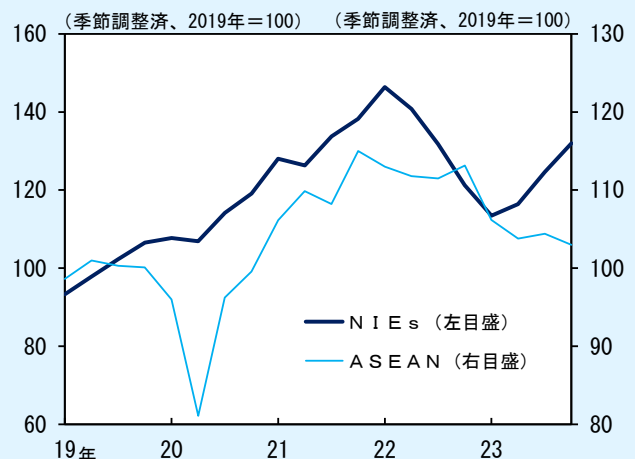
（注）1. WSTSデータを用いて日本銀行スタッフが算出。
2. 2023/4Qは、10～11月の値。

図表B1-2：大手半導体企業の売上高



（出所）S&P Global Market Intelligence
（注）AIとの関連が強い半導体企業は、近年需要が急拡大しているAIサーバー向け半導体の設計・製造に携わる大手半導体4社。その他は、大手半導体46社。

図表B1-3：アジア地域のIT関連生産



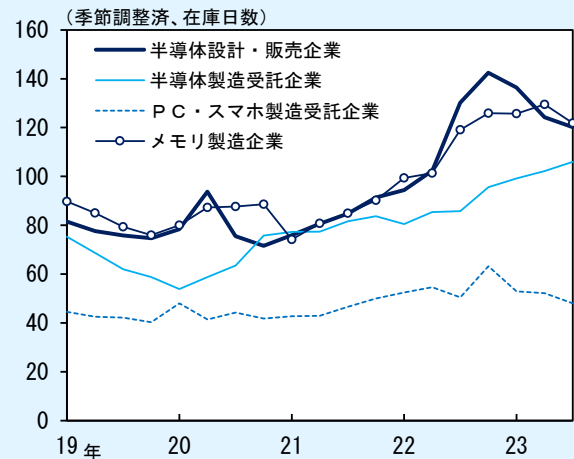
（出所）CEIC、IMF
（注）1. 2023/4Qは、10～11月の値。
2. 各国・地域のIT関連生産指数を、GDPウエイトで加重平均したもの。NIEsは、韓国、台湾、シンガポール。ASEANは、タイ、マレーシア、フィリピン。

まず、AI関連の高性能半導体については、技術漏洩の防止や品質の担保の観点等から、限られた国・地域内で製造を完結させる傾向があり、生成AIサービスの拡大を背景としたIT需要の回復が、国・地域の広がりを伴うかについては、不確実性が高いと考えられる。

次に、PCやスマートフォンなどの需要については、感染症流行時に購入された製品の買い替え需要や新製品の投入などを受けて、次第に回復ペースを高めていくとみられるものの、リモートワーク需要の一巡や買い替えサイクルの長期化に伴い、本格的な回復までに時間を要する可能性がある。

グローバルなIT関連需要の今後の展開については、国・地域毎、最終製品毎の動向やそれを踏まえたわが国経済への影響なども含めて、きめ細かく注視していく必要がある。

図表B1-4：IT関連企業の在庫状況



(出所) S&P Global Market Intelligence

- (注) 1. 半導体設計・販売企業は、ロジック半導体を設計・販売するファブレス大手12社。半導体製造受託企業は、ファウンドリ大手9社。PC・スマホ製造受託企業は、EMS大手9社。メモリ製造企業は大手6社。
2. 在庫日数は、期末在庫÷売上原価×365として算出。